

*** 論 文 ***

国内 SRI ファンドの公開情報に関する調査

～ SRI ファンドの国内普及に向けて～

社会システム研究所 CSR 調査室 佐藤 拓人

要 約

PRI が 2006 年 4 月にスタートして以来、ESG（環境・社会・ガバナンス）の概念を投資プロセスに組み込もうとする動きが世界的に進んでいる。日本では、ESG を運用プロセスに組み込んだ投資商品として SRI ファンドが設定されており、市場規模は 2007 年 12 月末時点で 7455 億円（SIF ジャパン¹調べ）となっている。SRI ファンドへの投資が盛んな米国の状況と比べると、2007 年の米国の SRI ファンドの市場規模は 2020 億ドル（23.2 兆円²）となっており、欧米のレベルと比べると大きな差がある。今後、日本国内でも SRI ファンドが多くの投資家から支持され、普及するためには SRI ファンドが一般のファンドと何が違うかが理解される必要がある。そこで本稿では、国内の SRI ファンドの公開情報を販売資料、目論見書、WEB 等から収集し、公開情報によって SRI ファンドの傾向や状況を、どの程度知りうるかを検証した。その結果、SRI の理念、ESG に関する情報の根拠や調査会社、ESG の評価を行っている運用プロセスの説明が SRI ファンドを知るために必要な情報であることがわかった。SIF ジャパンが SRI ファンドに分類する 50 の本ファンドの公開情報を検証すると、SIF ジャパンによる「環境」「CSR」「ウーマノミクス」「雇用」といった SRI ファンドの分類の中で、「環境」は、さらに「環境経営」「インフラビジネス」「エネルギー関連」を重視した投資をするファンド、「CSR」に分類されるファンドは E と S に加え、G の 3 要素を総合的に評価するファンド、「ウーマノミクス」「雇用」には、人材活用の視点から企業を選別している投資分野であることが確認できた。日本の金融機関についても、国内 SRI ファンドの普及やサステナブルな社会作りの一助となるためには、SRI ファンドのコンセプトを明確にできる情報提供が求められよう。

¹ 2003 年に日本国内の SRI 市場に関する調査と、普及を目的として設立された NPO 法人。

² 2007 年末の対顧客電信売相場 115.15 円で換算。

目 次

1. はじめに
2. SRI ファンドに関する公開情報のポイント
3. 評価項目と投資分野に関する傾向
 - 3.1 評価項目「環境」の投資分野と傾向
 - 3.2 「CSR」とその他の傾向
 - 3.3 評価項目と投資分野の分類
4. おわりに

1. はじめに

PRI（責任投資原則）³が2006年4月にスタートして以来2年が過ぎた。当初のPRI署名は33機関からスタートしたが、2008年5月現在で362機関となった。また署名機関の下で運用されている資産も当初の2兆ドルから14.3兆ドル超となった⁴。この2年半程度でPRIへの賛同者が着実に増えていると言えよう。またUNEP FI自身も活動の範囲を広げており、運用機関やSRIファンドへの働きかけのみならず、ソブリンウェルスファンド⁵や新興国等にも、活動範囲を広げていこうという検討課題を持っている。このようなESG（環境・社会・ガバナンス）概念を投資プロセスに組み込もうとする動きが世界的に進む中、日本は相対的に展開が遅いと言えそうだ。2007年末のSRIファンドの市場規模を日米で比較すると、日本が7455億円（SIF ジャパン調べ）であるのに対し、米国が2020億ドル（SIF（米国）調べ⁶、23.2兆円）である。米国のSRIファンドの残高は日本の約30倍に達する。今後、日本国内でもSRIファンドが多くの投資家から支持され、普及するためには何が求められるのだろうか。今後、SRIファンドを提供する金融機関自身の責任の一つとして考える必要がある。

このような点を考察するために、下記の視点からSIF ジャパンが取り上げている50

³ 国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が主導となり設立された宣言。持続可能な社会作りのために、主として投資分析と意思決定のプロセスにESG（環境・社会・ガバナンス）の課題を組み込むことを金融機関や評価機関に対し求めたもの。

⁴ UNEP FI（国連環境計画金融イニシアティブ）の最新レポート「PRI Report on Progress 2008」。

⁵ ソブリンウェルスファンド（SWF）とは、主に政府系の投資ファンドのことを指す。アブダビ投資庁やクウェート投資庁などは、サブプライム問題で損失を受けた外資系投資銀行への出資をしたことでも最近注目を受けた。

⁶ Social investment forum (SIF)は米国内のSRI市場に関する調査を行うNPO団体。

本の SRI ファンドの公開情報を検証した。

- (1) 公開情報（販売資料、目論見書、WEB 等）からどの程度情報が取得できるのか？
- (2) 公開情報になんらかの傾向があつて分類可能かどうか？

SIF ジャパンが集計している 50 本の国内 SRI ファンド公開情報について上記の 2 点を検証した。その結果を付表 1 にまとめた⁷。

2. SRI ファンドに関する公開情報のポイント

例えば、個人投資家が資産運用を目的としてファンドを選択する際、ファンドの投資先や基準価額の動向、パフォーマンスなどは販売資料や WEB から簡単に取得することができる。では、SRI ファンドそのものを特徴付ける上で重要な情報は同様に取得できるのだろうか。通常ファンドと違う SRI ファンド固有の情報として以下のような 3 点があると考えられる。

- ・ SRI の理念
- ・ ESG ファクターの種類と評価の方法
- ・ 運用プロセスにおける ESG ファクターの反映方法

SRI ファンドの設定時のコンセプトや投資目的として、社会的責任を果たす企業へ投資することや、こういった企業を支援するという投資哲学の様なものが SRI 理念である。通常ファンドとの比較で、SRI ファンドはこの SRI 理念が示せなければ、投資家はその違いを明確に理解することは難しいだろう。50 本の SRI ファンドのうち、特に SRI の理念が明確に提示されていたのは、朝日ライフ SRI 社会貢献ファンド（「あすのはね」）と住信 SRI・ジャパン・オープンである（付表 1）。朝日ライフ SRI 社会貢献ファンドでは、下記のような SRI 投資哲学（4 ヶ条）をあげている。サステナビリティ投資の哲学とも考える投資哲学となっている。

- ・ ビジネスを通じて、社会的課題に積極的に取り組んでいる企業に長期投資を行います。
- ・ 社会的な理念と優れた競争戦略のリンクが収益ドライバーになると考えます。

⁷ 付表 1 は 50 本の SRI ファンドを設定日順に並べ、ファンド名、特徴、SIF 評価項目、調査機関で構成されている。“評価項目”については 3 節で説明する。

- ・「成長の限界」を乗り越えて行く事業を発掘します。
- ・ 自然環境の保全、社会的公平、新しい雇用を生み出す活力ある経済を同時に実現する社会を目指しています。
(「あすのはね」の目論見書より抜粋)
- ・ 住信 SRI・ジャパン・オープンでは、「SRI(社会的責任投資)の高い理念とパフォーマンスを共に追及します」という文言がファンドの特色に盛り込まれている。そして、下記の点が明示されている。「企業が社会的責任を果たすことは、企業の持続可能性を高め、株主価値の向上に貢献する」との考えにもとづき投資を行います。
- ・ 企業の社会的責任は「法的責任」「社会的責任」「環境的責任」「経済的責任」の4つの評価軸から多面的に評価します。
(住信 SRI・ジャパン・オープン「グッドカンパニー」目論見書 2008.3.17 より抜粋)

企業の持続可能性を高めうる社会的責任として、ESGの要因（E:環境的責任、S:社会的責任、G:法的責任）に加えて経済的責任が加味され、トリプルボトムラインの評価項目を列挙しているのである。これもサステナビリティが明確に投資哲学に織り込まれている事例である。

また、ESGファクターの種類や評価の方法に関する情報も必要だろう。例えばESG評価を行っている調査会社の概要や、そのリサーチコンセプトなどが含まれる。インテグレックス、グッドバンカー、モーニングスター、ISSといったESG評価機関が明示されている事例が散見される。インテグレックス（ダイワSRIファンド、DIAM高格付インカムオープンSRI、自然環境保護ファンド、「しがぎん」SRI三資産バランス・オープン、三井トラスト社会的責任ファンド）、グッドバンカー（三菱UFJ SRIファンド）、ISS（AIG-Sankyo 日本株式CSRファンド、AIG-りそな日本株式CSRファンド、AIG-ひろぎん日本株式CSRファンド）などがある（付表1）。ファンドがトラックするSRIインデックスが明確な事例としては、FTSE（野村グローバルSRI100、地球環境株ファンド）、KLD（地球温暖化防止関連株ファンド）がある。サステナブル投資を行っている運用機関に運用を委託している事例としては、SAM（グローバルウォーターファンド、グローバル・エコ・グロース・ファンド）、KBC（三菱UFJ グロー

バル・エコ・ウォーター) などがある(附表1)。

そして、このような ESG ファクターを、運用プロセスでどのように取り込んでいるかについても明示される必要がある。従来の財務ファクター中心の運用と何が違い、どのような ESG ファクターを重視してプロセスに付加しているかが明らかであることが求められよう。SRI ファンドのコンセプトや SRI 理念が運用で実践されているのかを判断するために必要である。具体的事例は次章でとりあげる。

3. 評価項目と投資分野に関する傾向

SIF ジャパンの公表している公募投信一覧では、評価項目を「環境」「CSR」「雇用」「ウーマノミクス」と4つに分類している。この4つの分類ではカバーされる範囲が広いので、公開情報の検証を元に、この4分類について、さらに具体的な投資分野で分類できるかを検討してみたい。

3.1 評価項目「環境」の投資分野と傾向

50本のファンドの公開情報からは「環境」が、さらに投資分野として「環境経営」「インフラビジネス」「エネルギー関連」に分類できる。環境対策における紙やゴミ等の削減、オフィスへのエネルギー効率の高い機器の導入、周辺環境の整備や環境投資、環境会計に関する積極開示といった企業行動に着目した投資を実施しているケースが「環境経営」に分類される。注意すべき点は、環境経営を行う企業が、必ずしも環境に関連するビジネスを行っているわけではないことである。その結果、業種は多岐にわたる。損保ジャパン・グリーンオープンが「環境経営」の評価を運用プロセスに組み込んだ事例の一つである(図表1)。このファンドは環境対策に積極的に取り組む企業を「環境経営を実践する企業」と定義し、評価の高い銘柄によってポートフォリオを構築している。

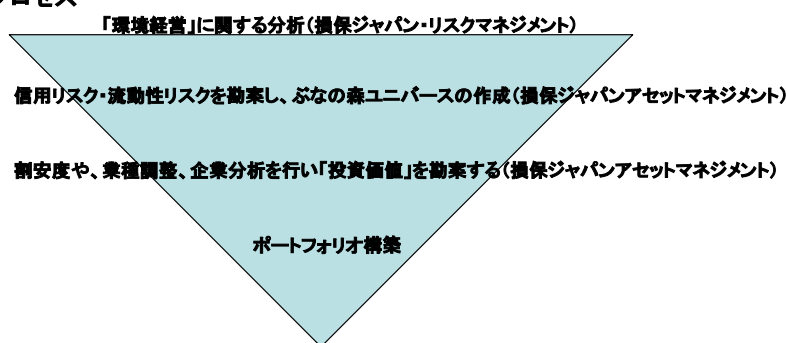
投資対象となる企業が環境に関連するビジネスを行っているケースが「インフラビジネス」である。それはエネルギー関連のプロダクトに関連する企業や、水に関連する施設等のインフラビジネスに関連する企業などに投資するものである。上下水道などの水処理技術等を持つ企業が主な投資対象となっている。インフラビジネスが注目される理

由は、水に関連する特有の問題があるからである。例えば、日本の高度経済成長期において水質汚染問題があったように、現在の中国などの高度経済成長期にある国の急速な経済発展による水質汚染が問題となっている。しかし水の問題は汚染に関する問題だけではなく、地球上で水が不足しているという問題がある。アジア太平洋ウォーターフォーラムによれば、安全な飲料水へアクセスできない人々が世界に約 10 億人、基本的な衛生設備にアクセスできない人々が 25 億人近くいるとされている。また、今後考えられる人口増にともなう食糧危機にも関連する分野であり、水の問題とは環境だけでなく衛生や食糧といった問題に広く関わる。

図表 1 投資対象と運用プロセスの例 1

「環境経営」の例：損保ジャパン・グリーンオープン

- **投資対象「環境経営」**
 - **投資対象**
⇒「**環境経営を実践する企業**」
環境保全意識が高く、環境対策に積極的に取り組む企業を「環境経営を実践する企業」と定義
これらの企業は競争社会の中ですでに収益面・技術面で優位に立っており、更なる発展が可能
⇒「**投資価値の分析**」
「環境経営を実践する企業」から割安度等の投資価値の高い企業を選別する。
 - **調査機関**
⇒損保ジャパンリスクマネジメントから、「環境経営」に関するデータを取得
- **運用プロセス**



出所：目論見書を参考に日興フィナンシャル・インテリジェンス作成

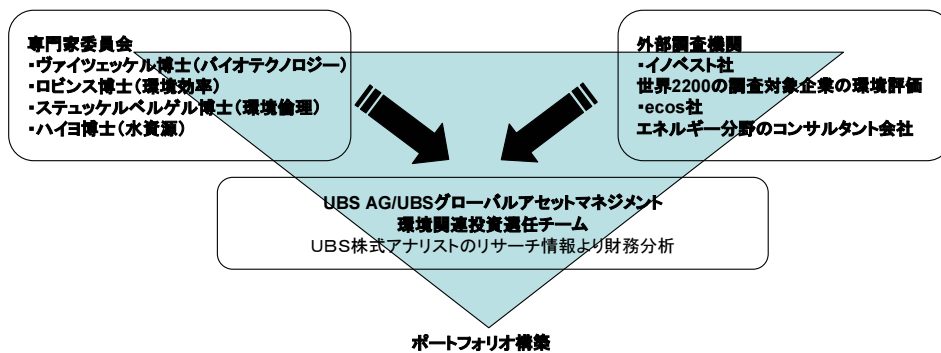
そして、太陽光発電や風力発電といったような再生エネルギー、省エネ技術、CO2 排出削減に関する技術や機器を製造する企業を投資対象とするのが「エネルギー関連」である。「エネルギー関連」は世界的な環境意識の高まりや、低炭素社会へ移行するために発展が急がれている分野であり、長期的に投資機会として有望な投資分野と認知さ

れ始めている。国内 SRI ファンドのエネルギー関連を投資対象とした UBS 地球温暖化対応関連株ファンドの例を図表 2 に示した。

図表 2 投資対象と運用プロセスの例 2

「エネルギー関連」の例: UBS 地球温暖化対応関連株ファンド

- ・ **投資対象「エネルギー関連」**
 - **投資対象**
⇒「地球温暖化防止に関連した、革新的な技術力を持つ世界各国の株式に投資」
環境ビジネスはメディアや消費者による関心の高まりが世界的であり、政府からも補助金や税制面で有利である場合が多く、投資機会として魅力的
⇒「3つのテーマ」
注目されている再生エネルギー、省エネルギー、温暖化ガス削減に関する企業の株式に投資。
 - **調査機関**
⇒イノベスタ社とecos社から環境に関する情報を取得
- ・ **運用プロセス**



出所：目論見書を参考に日興フィナンシャル・インテリジェンス作成

この図表 2 の UBS 地球温暖化対応関連株ファンドの例からわかることは、環境経営を重視した企業を選別するファンドとは異なり、当該企業の環境ビジネスを投資機会として捉え、投資分野をエネルギー関連に特化して、投資対象セクターを絞ったファンドであることがわかる。この傾向は、他のエネルギー関連やインフラビジネスを投資分野とするファンドでも多く見られる。

ESG の E(環境)のテーマがさらに分類されている事例としては、スイスの onValue 社による SRI の分類がある。同社はサステナブルという範疇を、気候変動、再生エネルギー、水関連に分類している (図表 3)。

図表3 スイスSRI市場における投資対象の分類例

| 2007年12月時点 | 内訳 | 純資産 (million CHF) |
|--------------------|--|----------------------|
| Sustainable themes | Climate change (気候変動) | 3,284 |
| | Ren.energy/Energy efficiency (再生エネルギー、環境効率) | 5,203 |
| | Sustainable water (主に水関連ビジネス) | 13,182 |

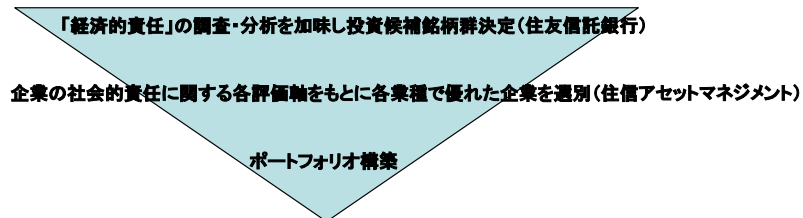
出所：onValue社のレポートを参考に日興フィナンシャル・インテリジェンス作成

3.2 「CSR」とその他の傾向

企業のCSR活動には、本業を通じた活動、本業以外での地域での活動、寄付活動など様々である。また業種や企業の規模・財務状態によって、可能な範囲や活動内容は全く異なると考えられる。しかし、SIF ジャパンによって「CSR」に分類されるファンドの公開情報を検証すると、その多くが、運用会社や評価会社によってESGの要素が総合的に配慮され、評価されていることがわかった。言い換えれば企業の社会性が評価されているのである。「CSR」に分類される住信SRI・ジャパンオープンの例(図表4)では、「法的責任」「社会的責任」「環境的責任」が多面的に評価されていることがわかる。つまり、SIF ジャパンの「環境」の評価項目に属するファンドが、ESGの要素のうちE(環境)のみを考慮している状況に対し、「CSR」の評価項目に属するファンドはESG要素を総合的にとらえており、E(環境)・S(社会)に加えG(ガバナンス)も含めた総合型と言うべき評価を行っている。特に、G(ガバナンス)を考慮しているのは「CSR」の評価項目に分類されているファンドのみである。「ウーマノミクス」と「雇用」の評価項目に分類されるファンドは、企業の人材活用の取り組みが優れている企業を投資対象とするファンドであり、女性活用やファミリーフレンドリーをテーマにしている。

図表4 投資対象と運用プロセスの例3 「CSR」の例：住信SRI・ジャパンオープン

- ・ **投資対象「CSR」**
 - **投資対象**
⇒「CSRに注目」
日本株式を対象としてCSRの取り組みの進んだ企業に投資。「企業が社会的責任を果たすことは、企業の持続可能性を高め、株主価値の向上に貢献する。」との投資理念を持つ「法的責任」「社会的責任」「環境的責任」「経済的責任」の評価軸を多面的に評価
 - **調査機関**
⇒日本総合研究所より「法的責任」「社会的責任」「環境的責任」の情報を取得
- ・ **運用プロセス**
約2000社の中から「法的責任」「社会的責任」「環境的責任」に関する調査(日本総合研究所)

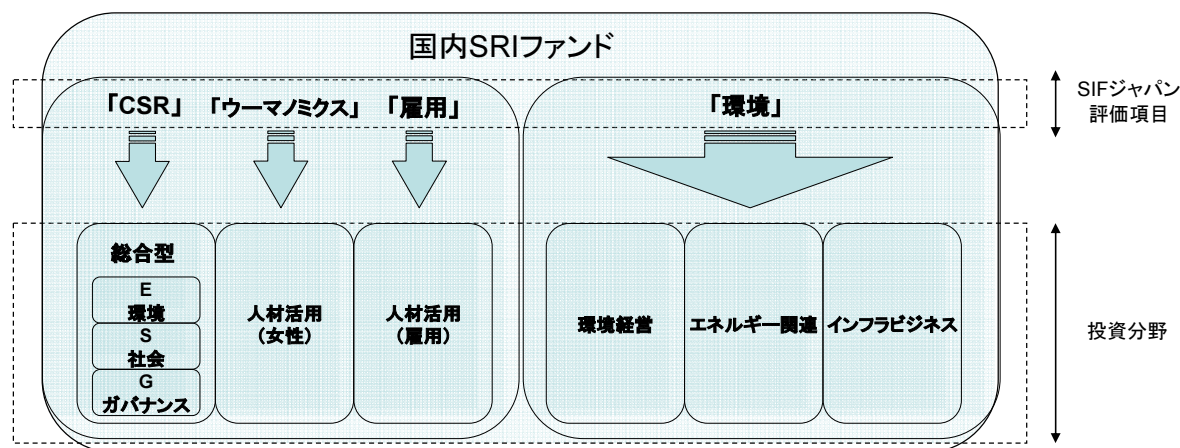


出所：目論見書を参考に日興フィナンシャル・インテリジェンス作成

3.3 評価項目と投資分野の分類

図表5はこれらの傾向をSIFジャパンによる評価項目ごとの投資分野を見た結果をまとめたものである。ここでは今回調査した国内SRIファンドの投資分野と、SIFジャパンの評価項目との関係を示している。「環境」の分類の中には「環境経営」「インフラビジネス」「エネルギー関連」を重視した投資をするファンド、「CSR」に分類されるファンドはEとSに加えGの3要素を総合的に評価するファンド、「ウーマノミクス」「雇用」には人材活用の視点から企業を選別する投資分野に分類できる。ただし、「環境」に関連したファンドの中にはこの「環境経営」「エネルギー関連」「インフラビジネス」の3つのうち必ずしもどれかに当てはまるわけではなく、ファンドにより複数の投資分野を選択している場合もあるため、複数の分野に属するケースもありうるからである。

図表5 SIF 日本の評価項目と投資分野



出所：日興フィナンシャル・インテリジェンス作成

SRI ファンドの投資分野を明らかにすることが、SRI 理念に共感する投資家にとって、必要不可欠である。今後、ESG といった非財務的要因による企業評価が充実するにともない、従来からのファンドのセクター、バリュエーション、保有資産といった分類に加えて明確な SRI 分類が必要になると考えられる。SRI ファンドが、それ以外のファンドと何が異なるかを明確にするためには、今後 SRI ファンドの体系化された分類の構築も金融機関の社会的責任の一つになろう。

4. おわりに

本稿では国内 SRI ファンドの公開情報を検証した。その結果、SRI ファンドを選択するために、SRI の理念、ESG ファクターの種類と評価の方法、運用プロセスにおける ESG ファクターの反映方法といった情報が必要であることがわかった。これらの情報が公開情報に盛り込まれることが、日本における SRI ファンドの認知度を高める一つの材料になると考えられる。今後は海外の SRI 事情や ESG に関する評価機関の調査を通じて、日本の SRI ファンドの普及と可能性についても検討していきたい。

参考文献

- 谷本寛治、「SRI と新しい企業・金融」2007年4月
中嶋幹、「SRI ファンドのパフォーマンス」2006年12月
早乙女季孝、「日本の公募 SRI ファンドの現況」
藤井良弘、「金融で解く地球環境」
水口剛、「ソーシャルインベストメントとは何か」1998年6月
水口剛、「社会的責任投資（SRI）の基礎知識」2005年12月
中村久人、「社会的責任投資（SRI）に関する一考察」2006年11月
onValue、「Sustainable investments in Switerland 2007」
UNEP FI、「PRI Report on Progress 2008」
SIF-Japan、「日本 SRI 年報 2007」
アジア太平洋ウォーターフォーラム
各種投資信託交付目論見書

付表1 調査対象の一覧表

| | 設定日 | ファンド名 | 特徴 | SIF 評価項目 | 調査・助言 |
|----|------------|---------------------------------|--|-------------|---------------------------|
| 1 | 1999/8/20 | 日興エコファンド | 環境への配慮が優れ、確かな経営ビジョンと競争力を持つ「エコ・エクセレントカンパニー」に積極的に投資。グッドバンカー社より環境スクリーニングのスコア情報提供を受けた600社から、日興アセットマネジメント社が200社のユニバースを作成。そのうち、約100社でポートフォリオを構築する。 | 環境 | グッドバンカー |
| 2 | 1999/9/30 | 損保ジャパン・グリーン・オープン | 環境問題への取り組み状況と投資価値の両面から分析し、特に「環境経営」の調査分析に重点を置きスクリーニングを行う。 | 環境 | 損保ジャパン・リスクマネジメント |
| 3 | 1999/10/29 | エコ・ファンド | 環境優良企業とは、本業が環境ビジネスとは無縁であって環境負荷を軽減させるような、環境配慮に経営した経営を行っている企業であり、リスク回避と成長機会において優位であるとの説明が行われている。環境問題への取り組み状況と投資価値の両面から分析し、日本株を選別。 | 環境 | グッドバンカー |
| 4 | 1999/10/29 | UBS日本株式エコ・ファンド | 環境対策に積極的な企業を優良企業と位置づけ、投資尺度のひとつとして重視する方針で選別。環境問題に取り組む企業は、業界のリーダー的企業・環境問題への技術力・環境投資が行える健全な財務が高いと判断。 | 環境 | 日本総合研究所 |
| 5 | 2000/1/28 | エコ・パートナーズ | 「環境問題に積極的に取り組む企業は将来にわたり発展していく」という投資理念のもと、「環境」のテーマと従来の財務分析をあわせてポートフォリオを構築する。 | 環境 | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング |
| 6 | 2000/9/28 | 朝日ライフSRI社会貢献ファンド | 国内の上場株式の中から、業種や規模にかかわらず個々の企業を独自に調査し、投資銘柄とするかどうかを決定。SRI資哲学(4ヶ条)を掲げている。 | CSR | VIGEO |
| 7 | 2000/11/17 | 日興グローバル・サステナビリティ・ファンドA(ヘッジなし) | SAM社より情報提供を受け、サステナビリティの理念を重視し、経済合理性・環境適合性・社会適合性の観点から調査を行う。その後SAMサステナビリティ・レーティングの評価の高い企業から財務分析を行う。 | CSR | SAM |
| 8 | 2000/11/17 | 日興グローバル・サステナビリティ・ファンドB(ヘッジあり) | 上記を参照。 | CSR | SAM |
| 9 | 2001/6/15 | グローバル・エコ・グロース・ファンドAコース(為替ヘッジあり) | 世界の株式を対象とし、優良株のうち環境と成長の観点から、環境に関連する事業を行っている企業に投資する。 | 環境 | T.ロウ・プライス・グローバルアセットマネジメント |
| 10 | 2001/6/15 | グローバル・エコ・グロース・ファンドBコース(為替ヘッジなし) | 上記を参照。 | 環境 | T.ロウ・プライス・グローバルアセットマネジメント |
| 11 | 2003/11/7 | UBSグローバル株式40 | 企業の社会的責任の遂行度に着目し、ダウジョーンズ・サステナビリティインデックス(SRI)の構成銘柄を参考にし、世界株式の中から投資企業を選別する。運用プロセスは、UBSグローバル株式ユニバースを、DJSIのSRIフィルターにかけ、最終的なポートフォリオを40銘柄ほど選別する。 | CSR | UBS AG |
| 12 | 2003/12/26 | 住信SRI・ジャパン・オープン | CSR活動を積極的に行っている日本企業を投資対象とする。日本総合研究所が法的責任、社会的責任、環境的責任の調査をし銘柄を選別。投資目的としてSRIの高い理念とパフォーマンスを追及すると説明している。 | CSR | 日本総合研究所 |
| 13 | 2004/3/26 | ワールド・ウォーター・ファンドAコース(為替ヘッジあり) | 水関連企業と空気関連企業を投資対象とした世界の株式に投資。SRIスクリーニングに関する記述はない。 | 環境 | ピクテアセットマネジメント |
| 14 | 2004/3/26 | ワールド・ウォーター・ファンドBコース(為替ヘッジなし) | 上記参照。 | 環境 | ピクテアセットマネジメント |
| 15 | 2004/4/27 | フコクSRI(社会的責任投資)ファンド | CSRの取組に優れた企業を選別。投資プロセスでの説明では社会的責任を果たす優れた企業に投資するためCSR調査を重視する。 | CSR | 富国生命投資顧問等 |
| 16 | 2004/5/20 | ダイワSRIファンド | 国内の上場株式および店頭登録株式を主要対象とし、CSRの取り組みに注目する。インテグレッタの調査情報からCSR評価の高い企業を抽出後、成長性、業績、PER、PBRの観点から選別。 | CSR | インテグレッタ |
| 17 | 2004/5/28 | 野村グローバルSRI100 | 世界の企業を対象とする「FTSE4Good Global 100 Index」に採用されている銘柄ないし採用が決定された銘柄の株式を実質的な主要投資対象とするインデックスファンドである。運用プロセスや調査会社であるEIRIS、FTSE社の情報が詳細に説明されている。 | CSR | FTSE4Good Global100 Index |

出所：SIF ジャパン、目論見書のデータを参考に NFI 作成

| | 設定日 | ファンド名 | 特徴 | SIF 評価項目 | 調査・助言 |
|----|------------|-------------------------------|--|-------------|------------------------------------|
| 18 | 2004/7/30 | モーニングスターSRIインデックス・オープン | 国内株式を対象としたSRI インデックスである「モーニングスター社会的責任投資株価指数」に投資するインデックスファンド。当インデックスは、国内上場株式から、様々なステークホルダーの視点に立った「社会性に関する評価基準」により選定した銘柄を採用している。 | CSR | モーニングスター社会的責任投資株価指数 |
| 19 | 2004/12/3 | 三菱UFJ SRIファンド | グッドバンカー調査によるファミリーフレンドリー評価(従業員のワークライフバランスについて良く考え取組が進んでいる企業を選別)が高く、かつ割安な銘柄が選別される。 | 雇用 | グッドバンカー |
| 20 | 2005/3/18 | AIG-SAIKYO 日本株式CSRファンド | 投資ユニバースから財務評価の後に、ISS社からの情報提供を受けCSR評価が相対的に高い企業を選別するというプロセスで投資判断。西京銀行専用に設定。 | CSR | Institutional Shareholder Services |
| 21 | 2005/3/18 | AIG/ リそな 日本株式 CSRファンド | 投資ユニバースから財務評価の後に、ISS社からの情報提供を受けCSR評価が相対的に高い企業を選別するというプロセスで投資判断。リそな銀行専用に設定。 | CSR | Institutional Shareholder Services |
| 22 | 2005/3/25 | 損保ジャパン・SRIオープン | 企業の社会的責任を意識し、先進的な取り組みを行う企業の中から、割安な銘柄を選別。モーニングスター社会的責任投資株価指数の150銘柄を参考にしている。 | CSR | パブリックリソースセンター |
| 23 | 2005/4/28 | AIG/ひろぎん 日本株式CSRファンド | 投資ユニバースから財務評価の後に、ISS社からの情報提供を受けCSR評価が相対的に高い企業を選別するというプロセスで投資判断。広島銀行専用に設定。 | CSR | Institutional Shareholder Services |
| 24 | 2005/8/12 | 日本SRIオープン | 富国生命投資顧問の調査により、CSRの取組に優れた企業の中から財務評価の優れた企業を選別。 | CSR | 富国生命投資顧問 |
| 25 | 2005/11/11 | アジアSRIファンド | アジア全体で優れたSRI投資信託証券を選択し、分散投資を行う。2008年初旬に償還済。 | CSR | モーニングスターアセットマネジメント |
| 26 | 2005/12/22 | DIAM高格付インカム・オープンSRI(毎月決算コース) | 国内の上場株式を主要投資対象とし、CSRへの取組みに着目して、持続的な成長が期待できる銘柄に投資。投資銘柄の選定にあたっては、株式会社インテグレッタスの投資助言を受ける。資産の組み入れは日本株式25%、外国債券75%。 | CSR | インテグレッタス |
| 27 | 2006/3/9 | ダイワ・エコ・ファンド | 環境への取組み姿勢と株主資本の活用状況に着目し、企業価値の向上が期待される銘柄に投資する。具体的には環境への取組み、資本効率、経営戦略、株価水準、流動性等を考慮しポートフォリオ構築。 | 環境 | 日本総合研究所 |
| 28 | 2006/3/14 | 6資産バランスファンド(分配型) | 国内外の株式、債券、REITに投資するバランス型ファンド。国内株式は、日本総合研究所が企業の社会的側面と環境的側面から調査を行い、CSR評価をする。外国株式については、イーコムリサーチ・アーゲーが、企業の社会的側面と環境的側面からCSR評価を行う。 | CSR | 日本総合研究所等 |
| 29 | 2006/3/14 | 6資産バランスファンド(成長型) | 上記分配型を参照。成長型はエクイティ比率は国内と海外が25%づつ。 | CSR | 日本総合研究所等 |
| 30 | 2006/5/26 | 自然環境保護ファンド | 積極的にCSRに取り組む国内の上場株式をを選別。債券を組み入れており、株式との比率は半々。 | CSR | インテグレッタス |
| 31 | 2006/6/12 | 住信日本株式SRIファンド | 住信SRIマザーファンドへ投資する。ゆうちょ銀行のために設定されたファンドであり、住信SRI・ジャパン・オープンと同一内容のファンドとなっている。 | CSR | 日本総合研究所 |
| 32 | 2006/6/28 | 世界6資産均等分散ファンド(毎月分配型) | 国内外の株式、債券、REITに投資するバランス型ファンド。国内株式は、日本総合研究所が企業の社会的側面と環境的側面から調査を行い、CSR評価をする。外国株式については、イーコムリサーチ・アーゲーが、企業の社会的側面と環境的側面からCSR評価を行う。 | CSR | 日本総合研究所等 イーコム・リサーチ |
| 33 | 2006/6/30 | りそな・SGウーマンJファンド | ソシエテジェネラル社の選定したウーマノミクス企業に投資。SRIと自称はしていないが、投資プロセスにおいて人材活用の優れた企業を選別しているため、S(社会的行動)の要素が読み取れる。 | ウーマノ | ソシエテジェネラルマネジメント |
| 34 | 2006/6/30 | 地球温暖化防止関連株ファンド | 地球温暖化問題に対する世界的な関心の高まりを受けて開発された、KLD Global Climate 100 Indexの銘柄を投資対象とし、円換算した同インデックスと同等の値動きを期待するもの。投資プロセスや調査会社の説明が詳細に行われている。 | 環境 | KLD Global Climate 100 Index |
| 35 | 2006/9/27 | 『しがぎん』SRI三資産バランス・オープン(奇数月分配型) | 主として複数のマザーファンドを通じて、国内株式、海外の債券、内外の不動産投資信託証券に投資する。株式のCSRの評価にあたってはインテグレッタス社の投資助言を受ける。 | CSR | インテグレッタス |

出所：SIF ジャパン、目論見書のデータを参考に NFI 作成

| 設定日 | ファンド名 | 特徴 | SIF 評価項目 | 調査・助言 |
|-----|------------|------------------------|--|------------------------------------|
| 36 | 2006/11/30 | 中央三井トラスト社会的責任投資ファンド | 倫理・法令順守体制を中心としたCSRを積極的に意識した活動を行っている企業群から、中長期的に株価の上昇が見込まれる銘柄を選別する。CSRの評価にあたってはインテグレックス社の投資助言を受ける。 | CSR インテグレックス |
| 37 | 2006/12/8 | しんきんSRIファンド | 株式の選別についてCSRIに着目した投資を行う。「最も着実な成長を期待できる企業は、社会的責任を果たすことにより、持続可能な経済の成長を推進する企業」との考えに基づき、財務・環境・社会・倫理を重視した調査を行う。 | CSR 富国生命投資顧問 |
| 38 | 2007/1/19 | SGウーマノミクスバランス株式30 | ソシエテジェネラル社の選定したウーマノミクス企業と外国債券を組みあせたマザーファンドへ投資。分配型であり株式組入れ比率は30%となっている。 | ウーマノ ソシエテジェネラルマネジメント |
| 39 | 2007/1/19 | SGウーマノミクスバランス株式70 | 上記分配型参照。成長型であり、株式組入れ比率は70%。 | ウーマノ ソシエテジェネラルマネジメント |
| 40 | 2007/6/15 | グローバルウォーターファンド | SAM社のSAMウォーターファンドへ投資するファンド。持続的な観点から水セクターを選び選定する。 | 環境 SAM |
| 41 | 2007/6/29 | ニュージェネレーション世界環境 | 地球環境を守る産業を応援するためのファンドというコンセプトのもと、水関連および再生可能エネルギー関連のビジネス分野への投資を目的とし、ニュージェネレーション指数へ投資する。 | 環境 ニュージェネレーション指数 |
| 42 | 2007/7/25 | 地球温暖化防止関連株ファンド(3ヵ月決算型) | 地球温暖化防止関連株ファンドの3ヶ月分配型。 | 環境 KLD Global Climate 100 Index |
| 43 | 2007/7/27 | 三菱UFJグローバル・エコ・ウォーター | 成長セクターである水関連企業への投資を目的とし、主にKBCエコウォーターファンドへ投資するファンドオブファンズ。評価会社のKBSアセット・マネジメント・エヌバイは、SRI専門の調査機関であり、サステナブルな観点から水セクターの調査を行っている。 | 環境 KBCアセット・マネジメント・エヌバイ |
| 44 | 2007/8/29 | 野村アクア投資Aコース(為替ヘッジあり) | 成長セクターである水関連企業からの高収益を狙うことを目的とする。調査会社はサステナブル投資を専門としており、投資銘柄の選別の際にサステナビリティ評価をしている。 | 環境 SAMサステナブル・アセット・マネジメントAG |
| 45 | 2007/8/29 | 野村アクア投資Bコース(為替ヘッジなし) | 上記Aコースを参照。 | 環境 SAMサステナブル・アセット・マネジメントAG |
| 46 | 2007/8/31 | UBS地球温暖化対応関連ファンド | 地球温暖化防止に関連した革新的な技術力をもつ世界各国の再生エネルギー・省エネルギー・排出削減に関する技術を持つ企業に投資。 | 環境 UBS, Innovest, ecos |
| 47 | 2007/8/31 | 温暖化対策株式オープン | 地球温暖化対策に関連する企業の株式に投資。投資するセクターや国の資産構成について詳細な説明がある。 | 環境 シュローダー・インベストメント・マネジメント・リミテッド |
| 48 | 2007/8/31 | 地球温暖化対策株式オープン | 温暖化対策株式オープンと同じマザーファンドへ投資。違いは販売会社の違いのみ。 | 環境 シュローダー・インベストメント・マネジメント・リミテッド |
| 49 | 2007/8/31 | 地球環境株ファンド | FTSE社の環境調査銘柄の情報提供を受け、そのうち環境への取組が優れている企業を投資対象ユニバースとする。環境対応力の高い企業へ投資することにより、持続可能な社会が作れると説明している。 | 環境 FTSE |
| 50 | 2007/8/31 | 地球環境株・外債バランス・ファンド | 地球環境株ファンドのマザーファンドの他に、外債を組み入れたもの。 | 環境 FTSE |

出所：SIF ジャパン、目論見書のデータを参考に NFI 作成